

Phantom Edge

田中真吾 | TANAKA Shingo

2017.6.2 Fri.-18 Sun. | Gallery PARC





Phantom Edge

田中真吾 | TANAKA Shingo

2017年6月2日[金]-18日[日]

11:00-19:00 (金曜日のみ20:00まで開廊) | 月曜休廊

Gallery PARC

Phantom Edge

田中真吾 Tanaka Shingo

2017年6月2日[金] — 6月18日[日]

月曜休廊

午前11時—午後7時 金曜日は午後8時まで

協力：eN arts



【広報画像01】 イメージ画像(本展DM使用画像)

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2017年6月2日[金]から6月18日[日]まで、田中真吾による個展「Phantom Edge」を開催いたします。

2006年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業、2008年に京都精華大学大学院芸術研究科博士前期過程洋画専攻修了した田中真吾(たなか・しんご/1983年・大阪生まれ)は、在学中から現在に至るまで、おもに火を用いた作品を制作・発表しています。

「焼失(破壊)」という不可逆的な事象から、『消失』の側面で捉えられることの多い「火」について、田中はその本質をひとつとするのではなく、むしろ火の本質を曖昧で多様なものとして捉え、様々な観点から作品に取り込んでいます。

漆喰パネルの上で画用紙を燃やし、煤や焦げといった火の痕跡によって描画を重ねた最初期の平面作品をはじめ、積層した紙の塊を燃やし、花卉のように開いた灰を見せる立体作品《trans》。1枚の紙片が燃え尽きる経過を長時間露光により撮影した《trace》などの写真作品。無数のビニルやフィルムなどを画面上で融解させ、それらをまるで絵具のように扱いながらひとつのオブジェクトへと変貌させる近年の《meltrans》などからは、田中が火を『消失』のみならず『変化』や『融合』による『生成』の現象として捉える視点を見ることが出来ます。

本展において田中は、矩形の角材にベニア板を張り重ねて燃やし、また張り重ねるを繰り返すことで、生成された作品を発表します。本作品は、現象(消失)の結果(カタチ)と、現象(生成)の結果(焦げた縁の線)を手がかりに、さらに行為(構成・配置)を繰り返したもので、田中と火による「行為と現象」の曖昧なやりとりの痕跡であるといえます。

本作品において田中は、「火とはなにか?」という問いの答えを提示するものではなく、火を「必然・偶然」の曖昧な狭間に置き続けることで、意味や観念、物語や比喩、文学や科学に結びつけることなく、「火とはなにか?」という曖昧で根源的な「問い」を物質化しようとしていると言えます。

必然と偶然、意味と無意味の狭間に揺らめく炎を、私たちがいつまでも眺めていられるように、田中の作品の鑑賞が、鑑賞者の中に「火とはなにか?」という曖昧で終わりのない問いを巡らせる時間を体験いただければ幸いです。

Phantom Edge

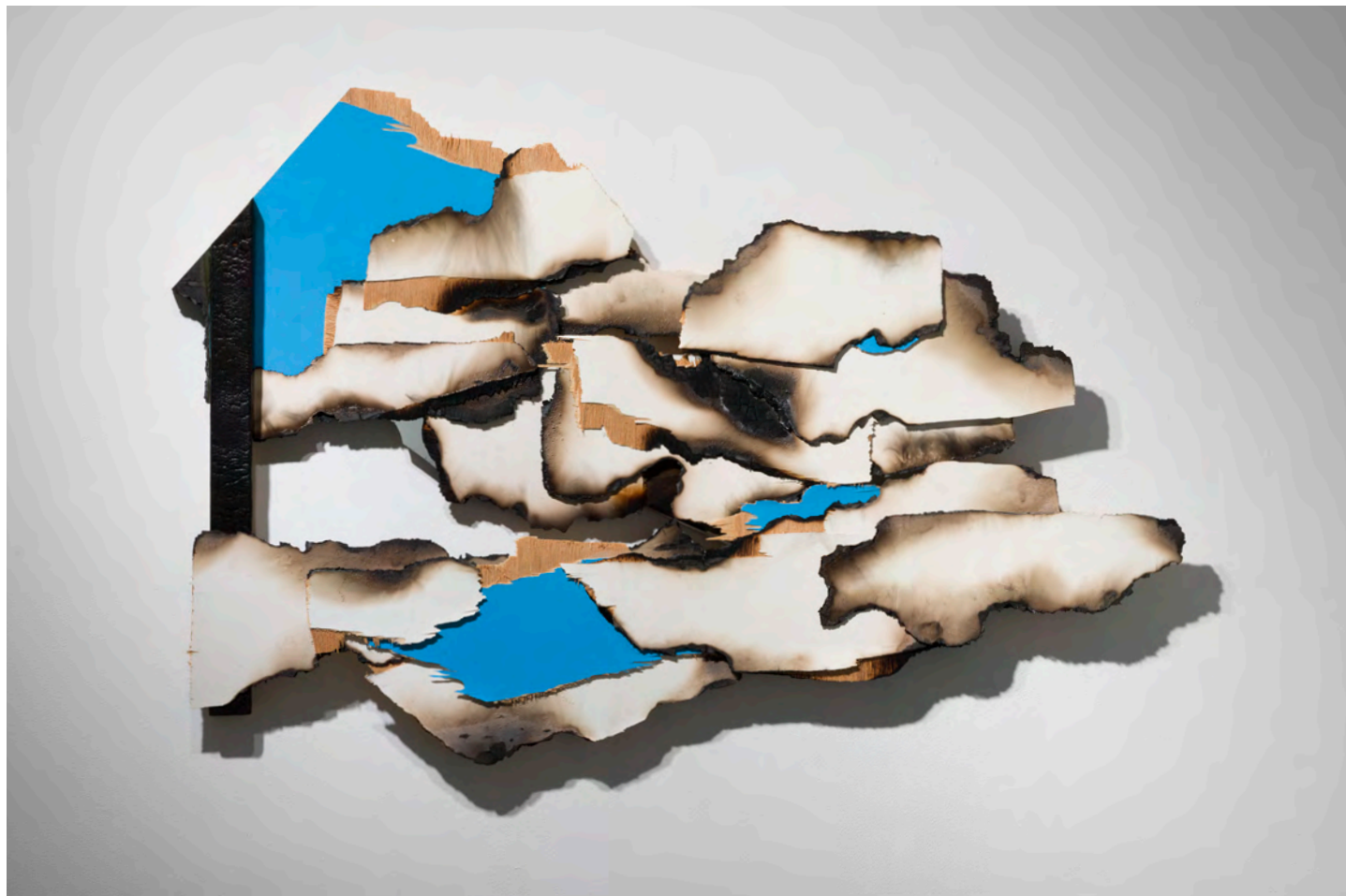
田中真吾 Tanaka Shingo

2017年6月2日[金] — 6月18日[日]

月曜休廊

午前11時—午後7時 金曜日は午後8時まで

協力：eN arts



【広報画像02】 過去作品《re:trans #43》 mixed media 780×650×180 2015 Photo:Tomas Svab

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 **Phantom Edge 田中真吾**

出展作家 **田中真吾 Tanaka Shingo**

会期 **2017年6月2日[金] — 6月18日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで**

協力 **eN arts**

料金 **無料**

内容 **【インスタレーション】**

火を制作のテーマとして作品制作に取り組む美術家・田中真吾による個展。

矩形の枠組みにベニア板を張り付け、燃やす（消失）ことで現れるカタチや焦げた縁を（生成）手がかりに構成された5mを超える大型作品とともに、過去作品10点による構成。

会場 **Gallery PARC [グランマール ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル**

アクセス **阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角 [グランマール] 店舗内2階**

問い合わせ **Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマール] 2F
【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com**

Phantom Edge

田中真吾 Tanaka Shingo

2017年6月2日[金] — 6月18日[日]

月曜休廊

午前11時—午後7時 金曜日は午後8時まで

協力：eN arts

Phantom Edge

やっていることはシンプルだと思う。

矩形の中でベニアと角材を張り重ねていき、ある程度のボリュームを持ってきたら燃やす。そこで生まれる黒のバランスを見ながら新しい木材を重ね、更に燃やす。その行為をただただ繰り返す。当然だが、燃えきった木材は脆くなり、焼け落ちる。その瞬間に黒は空白へと転じ、面は縁(edge)へと変化する。

制作を続けるうち、ふと、いま自分が何をしているのか分からなくなる。

この作業は「壊している」のか「作っている」のか、それとも「描いている」のか「削っている」のか、分からなくなる。

何かしら形として積み上がっていく以上、大局的に見れば「作っている」という言葉に集約されていくとしても、そこに至るまでの一手一手は、常に二極を等値として含み続けている。「壊す」だけでなく「作る」だけでもない、「描いてから削る」でもなく「削ってから描く」でもない。その同時発生性。

それは、「壊しながら作る」であり、「作りながら壊す」でもあるという矛盾を抱えながら、自らの選択をどこで行うのかと問い続けることである。

何も明確ではない。何か一つでは言い切れない。その曖昧さを肯定すること。

行為が積み上がった果てに立ち上がってくるものが何なのか、いまだ私は適切な言葉を持たないが、そのような結果にも人の想像力は働きかけ、視覚は何かを見つけ出そうとする。穿たれた空白に失われた面の広がりや想像し、露になった重なりや新しい奥行きを感じ取る。そうした作品とのやり取りの中から、表現と言葉の可能性を探していきたいと思う。

田中真吾

C.V

田中真吾

1983 大阪府生まれ

2006 京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業

2008 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期過程洋画専攻修了

SOLO exhibition | 個展

2016 ひかりをみる (ギャラリー揺 / 京都)

- meltrans (eN arts / 京都)

2015 N∩1-えし 意識 う品 (eN arts / 京都)

2014 す あ。ら 火 ー 見 極 (eN arts / 京都)

2013 かぎろいの輪郭 (eN arts / 京都)

2012 繋ぎとめる/零れおちる (eN arts / 京都)

- 白の解態 (studio90 / 京都)

2011 識間にふれる (eN arts / 京都)

2010 踪跡 (INAX GALLERY 2 / 東京)

2009 灯に照らされた闇 (studio90 / 京都)

- 夢と現 (eN arts / 京都)

2008 臉をつたう (shin-bi / 京都)

- ほどける距離 (ART SPACE NIJI / 京都)

2004 文明の二重奏 (CITY GALLERY / 大阪)

GROUP exhibition | グループ展

2017 confidential03 (eN arts / 京都)

2016 TAMAVIVANT II 2016 (多摩美術大学)

- eeny,meeny,miny,moe | orange (eN arts / 京都)

2015 Celsius (CASHI / 東京)

2014 eeny,meeny,miny,moe|red (eN arts / 京都)

2013 TSCA Rough Consensus (ANTEROOM KYOTO / 京都)

- 科学のあとに詩をかくこと (京都精華大学7号館)

2011 UNITED (eN arts / 京都)

2010 BIWAKO BIENNALE 2010 (近江八幡 / 滋賀)

2009 □△ハコトリ (函館 / 北海道)

2008 Black State (STUDIO J / 大阪)

- ART COURT FRONTIER #6 (アートコートギャラリー / 大阪)

Text | 論文

2015 『アルベルト・ブッリが獲得したコラージュの独自性』
京都精華大学紀要 第46号



【広報画像03】
(trans (cube #03))
mixed media 140×140×140 2009



【広報画像04】
(re:trans #43)
mixed media 780×650×180 2015
Photo:Tomas Svab



【広報画像05】
(meltrans #14)
plastic,iron 900×600×60 2016
Photo:Tomas Svab